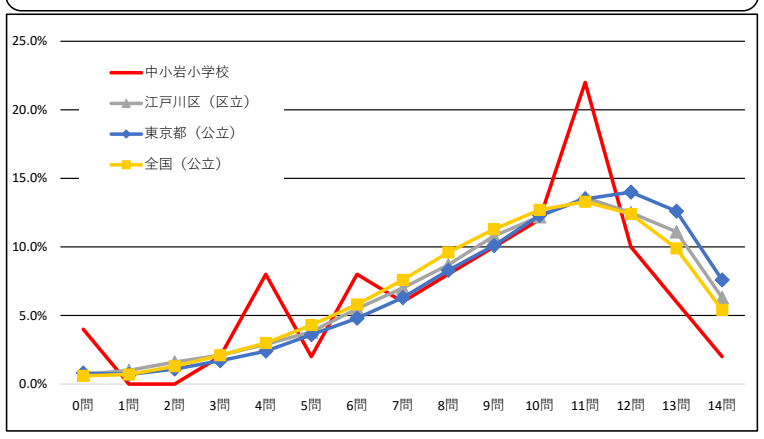
令和7年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【国語】中小岩小学校

正答数分布

平均正答数

中小岩小学校： 8.8問　江戸川区（区立）： 9.5問

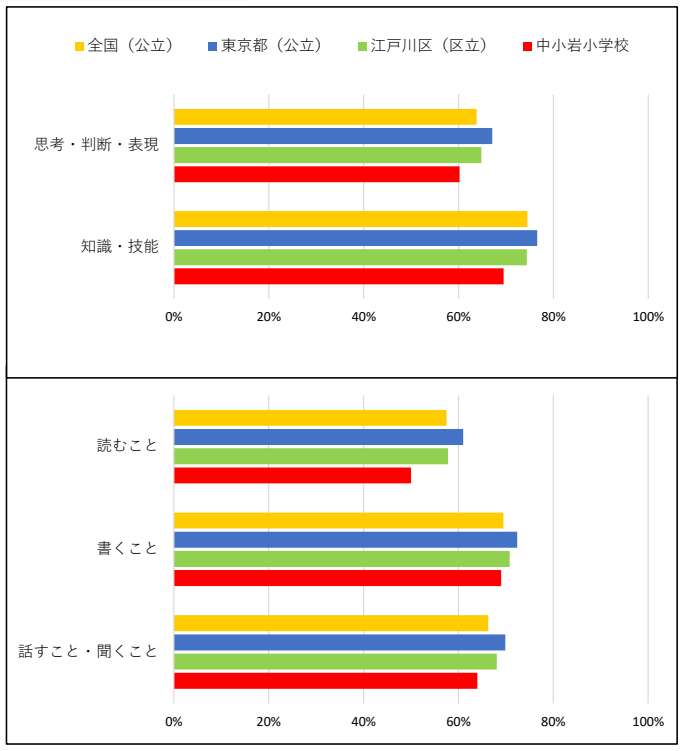
東京都（公立）： 9.8問　全国（公立）： 9.4問



【平均正答率の差】

中小岩小学校	63%
江戸川区（区立）	68%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	66.8%
都との差（ポイント）	-7.0

「領域別」の結果

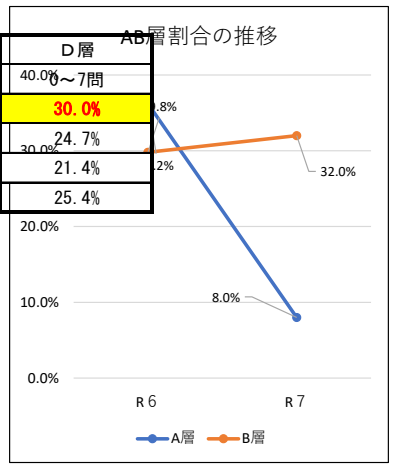


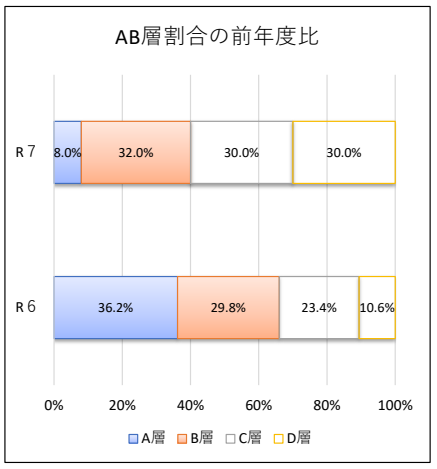
四分位における割合（都全体の四分位による）

上位 ←→ 下位

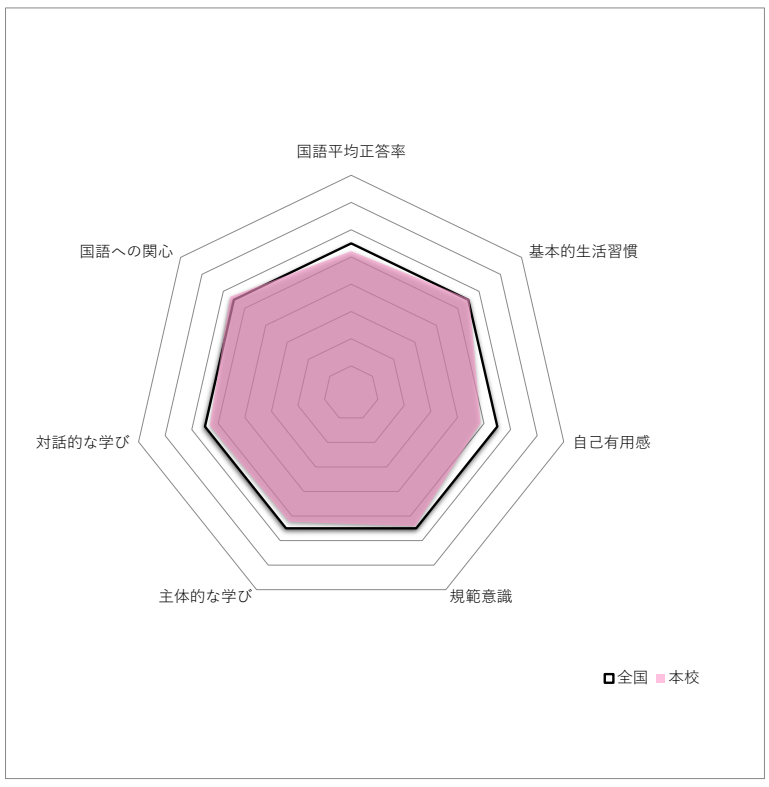
国語	A層	B層	C層	D層
	12～14問	10～11問	8～9問	0～7問
中小岩小学校	8.0%	32.0%	30.0%	30.0%
江戸川区（区立）	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都（公立）	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国（公立）	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

学力状況を示すチャートから、国語への関心や基本的な生活習慣、規範意識、対話的な学びについて肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。一方で、国語の平均正答率のほかに、自己有用感や主体的な学びに対する肯定的な回答の割合が、全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭と協力した、ことばの関わる学びの充実を図る。そのために、具体的な取組例を示し、ことばに触れる機会を充実させる。地域に対しては、ホームページにおいて本校の学習状況の取組について情報を発信したり、学習内容に応じて出前授業を実施したりする。また、本の読み聞かせについても協力を求めていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

令和７年度と令和６年度の平均正答率を比較すると、B層は2.2ポイント増に対し、A層は28.2減を示している。

国語の学習では、内容を正確に読み取り、自分の考えを言葉で表現する力の育成に取り組んでいる。また、国語の学習指導では、教科担任制を取り入れている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

教員が授業の中で「理由や根拠をもとに考えを伝えること」を意識して働きかける指導の工夫を進めている。また、児童が話し合い活動や書く活動を通して児童が考えを深める学習を推進するため、教員間で学習指導を参観することを推進し、指導の質を高める機会を設けている。

・基礎学力の保障

国語科において、語彙力や漢字の習得、文の読み取りを学習の基礎に位置付け、授業や家庭学習を通して取り組ませている。調査の結果から、教科書の文で使われていることばの意味を正しく理解したり、文章の中から必要な情報を見つけ出したりする力を高める指導を引き続き行う。そのため、語彙を確認しながら文章を読むことや、文の構造や段落の役割を意識した読み方を学ぶ時間を確保し、丁寧に指導していく。また、国語の学習で身に付けた漢字やことばを、他教科や学習活動において活用する機会を一層充実させる。

・学習習慣の確立

語彙の習得や漢字の定着、音読や作文は、毎日の積み重ねの中で身に付く内容である。そのため、授業と家庭学習をつなぎながら、「読む」「話す」「書く」を日常の中で取り組む学習習慣の定着を図る目。音読や語句の確認を学習の導入やまとめの時間に行い、短時間でも集中して取り組む姿勢を育む。また、書くことについては、要約したり、理由を添えたり、自分の言葉で説明したりする課題を設定し、家庭学習と並行して取り組ませる。

・AB層の育成

調査結果から、読み取ったことを自分で整理し、相手にわかりやすく伝えることに課題を感じている児童に対し、ただ読むだけでなく、「どこからそう考えたのか（根拠）」をことばで説明する機会を設定し繰り返し取り組ませる。また、意見を交流したり、要約したりする活動を通して、考えを表現する力を高めることを通して、AB層の育成を図る。